

シビル メール ニュース

土木工学科卒業生の皆様は是非「日本大学理工学部土木工学科」のホームページをご覧ください。

ホームページは<http://www.civil.cst.nihon-u.ac.jp>で検索してください。なおシビル・メール・ニュースをE-mailにて配信ご希望の方はmailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jpで購読申し込みください。

発行責任者 土木工学科教授・教室主任 岸井隆幸

大学祭（土木博）が11月3日（祝）から5日（日）まで開催

平成18年度の大学祭（青駿祭）が駿河台校舎で11月3日（祝）から5日（日）までの3日間開催され、土木工学科の学生諸君が開催した土木博には多数の方々が見学にきてくださいました。

今回、理工学部の代表として部科校祭企画に土木工学科が出場することになっております。

青駿祭実行委員長の加藤啓介君（土木工学科4年）の言葉



「第14回青駿祭にお越しいただいた方、また応援して下さい下さった方々、ありがとうございました。2006NU祭統一テーマ「リンケージ」ということで、私は展示、屋台、音楽がつながりを持てる様にやってきました。それは、ステージ、屋台、土木博と統一感を持たせることにより限られた中で最大限の効果を生み出し、より自分達のことを知ってもらえると感じたからです。至らぬことも多々あったと思いますがこの経験が来年に繋がり、より有意義なものになる様頑張りました。」

（この文章は加藤君の発言の要約です。上記の引用文は元の文章を正確に再現するために、一部修正が行われています。）

土木博のスナップ写真より



【コンクリート構造設計研究室】

土木博実行委員長の島田浩司君（大学院1年）からの御礼の言葉

「この度は皆様のおかげで無事に CIVIL EXPO 2006（土木博）を終えることが出来ました。今回の CIVIL EXPO は母校訪問などを通じて皆様方の多大なご協力をいただいた結果、来場者数は例年に比べ大幅増の403名を数え、非常に盛り上がったCIVIL EXPOとなりました。また高校生やOB・OG、一般の方々から戴いた多くのアンケート結果からも「感動した」「土木に対するイメージが良くなった」等のご意見をいただき好評であったことが伺えました。今回 CIVIL EXPO 実行総委員長を務めさせていただき改めて日本大学理工学部土木工学科の団結力と、パワーを実感いたしました。そして共に協力してひとつの目標のために努力することの大切さを再認識しました。最後になりましたが、共に CIVIL EXPO の運営に協力してくれました実行委員会の皆様、各研究室の皆様、そしてご指導下さった先生方、本当にありがとうございました。」



【都市計画研究室】



【環境地盤研究室】

船橋キャンパスウォッチング

11月5日(日)船橋キャンパスウォッチングが開催されました。船橋キャンパスの施設をいくつかのグループに分かれてコース別に見学したり各学科ごとにミニ講義を行いました。本学科では、後藤浩専任講師が「シビルエンジニアの取り組み」と題したミニ講義があり、その後各教室にて個別に学科説明や入試相談を行いました。同校舎内では習志野祭も開催されているため、多くの高校生や保護者の来場があり船橋校舎は賑わいをみせていました。



本学科外国人留学生の活躍

11月4日(土)船橋校舎にて外国人留学生スポーツ大会が開催されました。また同時に開催されております習志野祭においても、留学生の皆さんで屋台を出店し、母国の味を披露しました。留学生には、韓国、台湾、主に中国の出身者が多く、本学科在籍の留学生が中心となり焼餃子・水餃子・巻餅など伝統的な中国の味を、皮から手作りで挑戦していました。味の方も大変好評で、学園祭期間中賑わっていました。本学科には中国からの留学生が下記の6名、在籍しております。



「手作り餃子屋台」
本学科の留学生(励瑩さん右端)

- 3年生 孫琳さん(中国・山東省)、李京奉さん(中国・遼寧省)
励瑩さん(中国・上海市)
- 2年生 余劍華さん(中国・福建省)
- 1年生 張維波さん(中国・山東省)、李睿さん(中国・北京市)

土木工学科留学生を代表して女性の励瑩さんよりメッセージ

「今年度は国際親善会という留学をメインとしてのサークルの幹事を務めています。日本では普段食べられない異国風味の美味しさを、皆さんに味わってもらうために、生地から手作りで挑戦し、とても難しかったです。失敗しながらも皆さんと一緒に楽しむことができました。日本での大学生活でとてもよい思い出になりました。特に私芸を支えてくれたサークルのメンバー、そして応援してくれた先生方、本当にありがとうございました。」

平成19年度入学試験結果

平成19年度の入試において、以下のように合格者が発表されました。

A0(Admissions Office)入学試験	61名(48名)	試験実施日:10/22
付属高等学校等推薦入学試験(B方式)	51名(48名)	試験実施日:11/18
指定高校推薦入学試験	30名(25名)	試験実施日:11/18
公募制高校長推薦	9名(12名)	試験実施日:11/19

※()内は昨年度の合格者数です。

日本大学理工学部学術賞等表彰式について

平成 18 年 11 月 10 日(金)午後 5 時より、日本大学理工学部駿河台校舎 CST ホールにて、平成 18 年度日本大学理工学部学術賞・平成 18 年度学位取得者、平成 18 年度学会・協会賞等受賞者に対する表彰式が開催されました。本学科に係る表彰者は次の通りです。

学会・協会賞等受賞者表彰者

- 北原宏一氏 東電環境エンジニアリング(株) 副所長 S52.3 大学院修了
2005.10.13 海洋調査技術学会にて技術賞受賞
- 高橋正行氏 日本大学理工学部 助手 H.11.3 大学院修了
2005.12.26 (社)土木学会にて第 60 回土木学会年次学術講演会優秀講演賞受賞
- 小山内政廣氏 (株)日本線路技術 取締役検測事業部長 S54.3 卒
2006.5.26 (社)土木学会にて第 92 回土木学会賞 技術功労賞受賞
- 落合重俊氏 佐世保重工業(株) 顧問 S36.3 大学院修了
2006.6.8 日本鋼構造協会にて名誉会員受賞
- 山田泰生氏 (株)ジャパンテクノロジー 代表取締役社長 S37.3 卒
2005.11.8 海洋科学技術太平洋会議(PACON)にて支部長功労賞受賞

学位取得者

【課程博士】

- 小林純氏 博士(工学)
2006.3 論文題名「傾斜水路の跳水特性に対する空気混入射流の影響」
- 吉田征史氏 博士(工学)
2006.3 論文題名「亜硝酸を用いた脱窒性脱リン細胞の優占化を応用した新しい窒素・リン除去プロセスの開発に関する基礎的研究」

【論文博士】

- 岡田仁氏 博士(工学)
2005.12 論文題名「リバウンド現象により影響を受ける既設トンネルの影響予測手法と安全監視手法に関する研究」
- 梅津健司氏 博士(工学)
2006.3 論文題名「大偏心外ケーブル方式 PC 橋の構造特性に関する研究」
- 酒井秀昭氏 博士(工学)
2006.3 論文題名「プレキャストセグメント工法によるプレストレストコンクリート連続高架橋の合理的な設計施工方法に関する研究」
- 竹内洋市氏 博士(工学)
2006.3 論文題名「開発段階に応じた治水計画に関する研究～ヴェネズエラの河川を例として～」

本授賞式において竹内洋市氏(本学科昭和 38 年卒)が学位取得者代表として御礼の挨拶をされました。

「私が技術協力で働いていたヴェネズエラがモニュメント建設中心の水資源開発からマネジメントと経済性を重視した水資源開発に進むことを希望し、日本の人々にヴェネズエラの水資源事業を説明することを目的として博士論文を書こうと思いました。この論文を書いたことで今もヴェネズエラの人々と交流が続いております。初め 2 年間の予定で論文の作成を始めましたが、論文の最終版を書くまで 10 年経過しました。前半の 5 年間には資料の整理や論文執筆に年間 500 時間を掛けました。論文着手前には論文を書くことがこのように困難で、長期に掛かるとは、思いませんでした。博士論文を書く中で、論理的な文章の書き方を教えていただき、途中であきらめ

ようと思った私を励まし、ご指導いただいた竹澤三雄先生に深く感謝いたします。また、この論文を書く過程で私のパソコンを使いこなす能力が飛躍的に向上いたしました。これらのことは私達学位受賞者一同の心に新しいお宝が増えたことと考えております。最後に、これまでご指導いただいた先生方に学位受賞者一同を代表して心からお礼申し上げます。どうもありがとうございました。」

日本大学理工学部では、毎年、9月1日より翌年8月31日までの間に本学部出身者の方で博士の学位を取得された方ならびに学会・協会賞受賞された方々を表彰しております。皆様方のお知り合いの方々が該当する方がおられましたら土木工学科事務室(TEL:03-3259-0687)までご一報お願い致します。

最近の教員活動状況



岸井隆幸教授が平成18年11月6日に関東桜工会の依頼により、「学生」と「土木」と「社会」と題して講演を行いました。関東桜工会は、日本大学出身の関東圏域の国土交通省OBにて構成されている会であり、当日は約70名の出席がありました。岸井教授は、現在の日本大学の土木系3学部4学科の状況や学生の資質を解説した上で、現在の土木系大学の置かれている状況、社会資本整備の中での土木の役割、今後の土木のビックプロジェクトについて講演を行いました。



関東桜工会



野村卓史教授は、11月7日夜に放映されたNHKテレビ「7時のニュース」で、同日午後1時過ぎに北海道佐呂間町で発生し、死者9人を出した竜巻について、被害状況に関する解説を行いました。野村教授は、日本風工学会風災害研究会の主査を務めており、わが国に頻発する強風被害の調査と被害低減のための研究に従事しております。本年10月には、台風13号に伴って宮崎県延岡市で、死者3人を出した竜巻被害が発生したほか、各地で強風被害が発生しました。この台風13号の被害の甚大さと社会的影響の重要性から、その緊急な調査研究を行う必要が認められ、文部科学省から科学研究費特別研究促進費が交付されました。野村教授はその研究分担者として参加し、強風の作用に関する研究を行っております。



吉田征史助手が奨励賞を受賞されました。これは、若手の研究者で優れた研究を発表した人に与えられるもので極めて名誉なことです。11月17日～19日までに函館で開催される平成18年度第43回環境工学研究フォーラム(土木学会)において、第42回環境工学研究フォーラムで発表された論文が表彰の対象となり、研究の独創性が認められました。

吉田征史、齋藤利晃、田中和博、「亜硝酸による好氣的リン摂取阻害を緩和する脱リン細胞の脱窒能力」土木学会環境工学研究論文集、Vol.42、pp.69-79